

In Design の使い方

インターン期間 05.08.01～05.09.09 発表日 05.09.09

氏名 淡路 達人

目次

1.	In Design とは	3
2.	文章を書く.....	3
	2-1. テキストボックスを作る.....	3
3.	ページを追加、削除する.....	3
	3-1. ページを追加する.....	4
	3-2. ページを削除する.....	4
4.	図を挿入する.....	4
	4-1. 図を保存する.....	4
	4-2. 図の加工する.....	6
	4-3. 図を貼り付ける.....	7
	4-4. 図の大きさを変える.....	7
	4-5. In Design に図を埋め込む.....	7
	4-6. テキストの回りこみを指定する.....	8
	4-7. 図の余白を指定する.....	9
	4-8. 図の一部を強調させる.....	9
	4-9. 図をグループ化する.....	9
5.	目次を作成する.....	10
6.	治郎吉商店の段落スタイル.....	10
	6-1. 段落スタイルの位置について.....	10
	6-2. 治郎吉商店で定義している段落スタイル.....	11

はじめに

この文章は2005年の夏に治郎吉商店のインターンで書いたものです。治郎吉商店でマニュアルを作る際にこの文章を読むことによって In Design を使ったことのない人もマニュアルを作ることができるようになるということがこの「In Design の使い方」の目標です。

1. In Design とは

In Design は、Adobe 社製のページレイアウトソフトです。治郎吉商店では Mac の In Design を使ってソフトウェアマニュアルを作っています。

In Design を使うことの利点は以下の通り

- ・ 段落スタイルを使用することで文章がみやすくなる
- ・ 段落スタイルを使用することでフォントの統一がスムーズに行える
- ・ 段落スタイルを使用することで時間の短縮になる
- ・ 段落スタイルを使用することで文字の位置を統一できる
- ・ 図を挿入しやすい
- ・ 図を挿入した際にテキストの回り込みを指定できる
- ・ 目次を作る際に特定の段落スタイルを抜き出してくることができる
- ・ ページ数が多い場合にもページの移動が早い
- ・ 段落スタイルで統一されているので、人に見せる際にきれいに見える

2. 文章を書く

2-1. テキストボックスを作る

In Design は文字を書く場合は、Word でのテキストボックスのようにしてテキストを書く範囲を指定してから文字を打っていくという形になります。テキストボックスの大きさは、上と左右は赤い色の補助線に合わせて、下は赤い補助線をはみ出ない範囲で指定します。テキストボックスの下端の位置については「6-1. 段落スタイルの位置について」を参照してください。

3. ページの追加、削除

ページの追加、削除も画面右にある「ページ」パレットで行うことができます。

3-1. ページを追加する

- 1) 文章が途中で切れてしまった場合、次のページがないとページの右下に赤い十字のマークが出てきます。
- 2) 「ページ」パレットが表示されていない場合は[ウィンドウ]メニューにある[ページ]を選択します。
- 3) 「ページ」パレットで右下にある新規のボタンをクリックします。
- 4) ページ右下の赤い十字のマークをクリックします。
- 5) カーソルの形が変わります。
- 6) テキストを挿入したい部分にカーソルを合わせてクリックします。
- 7) 前のページで途切れてしまった文章が表示されます。

3-2. ページを削除する

- 1) 「ページ」パレットが表示されていない場合は[ウィンドウ]メニューにある[ページ]を選択します。
- 2) 削除したいページを選択します。
- 3) 「ページ」パレットで右下にある削除のボタンをクリックします。

4. 図を挿入する

In Design はマニュアルを書くのに使用しているため、マニュアルに必要な図を挿入する機会が多くあります。そのため、治郎吉商店では挿入する位置や図の加工法、画像の保存形式も定義しています。

4-1. 図を保存する

今回、図を保存する作業は Windows で行いました。

ペイントを使う場合

- 1) 撮りたい図や画像を「Print screen」キーで撮ります。
- 2) ペイント(スタートメニューのアクセサリかショートカットにある)を起動します。
- 3) 「Print screen」キーで撮った画像を貼付けます。(「Ctrl」+「V」) (※1)
- 4) 貼付けた画像を保存します。(※2)

※1 ペイントに画像を貼付ける際の注意

ペイントに何度も画像を貼付ける場合、前の画像を消去した後に次の画像を貼付けるようにしてください。次に貼付けた画像と前の画像がかさなって表示されてしまいます。また、ペイントの画面がスクロールしてしまっていると「Print screen」キーでとった画像が切れてしまいます。スクロールバーが左上にあることを確認してから図を貼付けるようにしてください。

Win Shot を使う場合

- 1) Win Shot が入っている場合は Win Shot を起動します。
- 2) タスクバーに出てくる Win Shot のマークをダブルクリックして設定を出します。
- 3) 画像の保存先とホット・キー(画像を撮るときに使用するキー)を設定します。(※3)
- 4) 撮りたい図や画像を「Print screen」キーで撮ります。画像はあらかじめ指定した保存先に保存されています。(※2)

※2 画像の保存形式について

画像を保存する際にはビットマップ(拡張子 bmp)で保存します。また、画像を PhotoShop で加工した場合は拡張子が psd になります。In Design で利用するときは bmp か psd を使うようにしてください。JPEG(拡張子 jpg)を使うと画像が劣化してしまいます。画像が劣化してしまうと、にじんでしまうなどの問題が生じてしまいます。

※3 Win Shot の設定について

Win Shot では図を撮る範囲を指定することができます。必要な部分だけを撮った場合には PhotoShop での加工は省くことができます。しかし、撮った部分以外を使いたい場合はもう一

度図を撮る必要があります。図の全体を撮って後で加工する方法と、図の一部やアクティブウインドウを撮る方法のどちらが使いやすいかは個人によって差があるので、実際に使ってみて確かめるのがいいでしょう。

4-2. 図を加工する

図を加工する作業は Mac の PhotoShop を使いました。

- 1) 加工したい図を保存してあるファイルからドラッグ & ドロップして PhotoShop に入れます。
- 2) 画面左のパレットから「ズームツール」(ムシメガネ型のボタン)をクリックします。
- 3) 取り出したい部分ができるだけ大きく見えるように「ズームツール」を使って拡大します。
- 4) 画面のパレットから「長方形選択ツール」(点線で書かれた四角形のボタン)をクリックします。
- 5) 使いたい範囲をドラッグして囲みます。選択した範囲をコピーします。(「コマンドキー」+「C」) (※4)
- 6) 新規で画面を開きます。(「コマンドキー」+「N」)
- 7) 5) でコピーした画像を貼付けます。(「コマンドキー」+「V」)
- 8) 貼付けた画像を保存します。この画像を In Design で使います。

※4 図を正確に切り取ることができない場合

もし作業が細かくて正確に範囲を選択できない場合は、一度切り取った画像をさらに PhotoShop で切り取ることができます。

- 1) やや大きめに選択して保存してしまいます。
- 2) 保存した画像を加工せずに In Design に貼付けます。
- 3) その後で図を選択します。
- 4) 図の枠についている四角形をドラッグして図の表示範囲を狭めることで、いらぬ部分を削ります。

4-3. 図を貼り付ける

- 1) 「コマンドキー」(りんごマークが書いてあるキー) + 「D」で図を選びます。
- 2) マウスカーソルが筆の形に変わります。
- 3) 図を貼り付けたい場所にカーソルをあわせてクリックします。
- 4) 図が挿入されます。
- 5) 縦に引いてある水色の補助線の左から2番目に図の左端を合わせます。

4-4. 図の大きさを変える

- 1) 大きさを変更したい図を選択します。
- 2) 図の左下の箱にカーソルをあわせます。(カーソルの形が変わります。)
- 3) 図の大きさを変えるときは「コマンドキー」+「Shift」を押しながらマウスで大きさを決めます。(※5)
- 4) 右クリック(Mac のマウスの場合「Ctrl」+クリック)で出てくる「拡大、縮小」を使うと数値によって大きさを変えることができます。

※5 図の大きさの変更

「コマンドキー」+「Shift」を押しながらマウスを操作することで図の縦と横の比を保ったまま大きさをかえることができます。

4-5. In Design に図を埋め込む

挿入した図は In Design のデータとして持たせることができます。図を埋め込んだ場合には様々な利点があります。たとえば、印刷時間の短縮や、もとの図を編集してもマニュアルの図は変更されなくなるという点です。また、図のリンクを気にする必要がありません。そのため、データをほかのパソコンで使いたいときに図を移動させるという手間が省けます。

図を埋め込むにはリンクパレットのリンクメニューを使います。

- 1) リンクパレット上で埋め込みたい図を選択します。パレットが表示されていない場合は[ウインドウ]メニューからリンクを選択します。
- 2) リンクパレットの右上にある矢印をクリックします。
- 3) リンクメニューの埋め込みを選択します。
- 4) リンクパレット上で図の名前の右側に埋め込まれたというマークが出ます。

4-6. テキストの回りこみを指定する

図を挿入すると、図によってテキストが隠れてしまいます。この場合、右側の「テキストの回りこみ」のパレットを設定することによって、図を避けてテキストが配置されます。

- 1) In Design 上に図を貼付けます。(3-2参照)
- 2) 「テキストの回り込み」パレットから「オブジェクトを挟んで回り込む」を選択します。(※6)パレットが表示されていない場合は[ウィンドウ]メニューの[書式と式]から[テキストの回り込み]を選択します。

テキストの回りこみ方にはいろいろありますが、図を上下に避けるものを選んでください。

「オブジェクトを挟んで回り込む」を選択する理由

- ・ 以前は複雑な回り込みかたがなかったため、オブジェクトを挟むという回り込みかたを使っていたから。
- ・ マニュアルを作る際には、文章と図を密につめる必要がないから。
- ・ マニュアルでは白い部分が多い方が親しみやすいから。
- ・ 図の挿入するか否かを、個人の感性に任せる必要が少なくなるから。(右に小さい図を入れる場合、入れない人もいる。そういうことを避けるため。)
- ・ 余白を残しておいた方が後で編集する際に楽だから。
- ・

※6 テキストの回りこみかたについて

改行を使ってテキストの回り込みをしないようにしてください。図を削除や移動した際に文章がばらばらになってしまったり修正するのに時間がかかったりしてしまいます。テキストの回りこみ方の種類はパレット上のボタンを見ればわかります。

4-7. 図の余白を指定する

テキストの回りこみを指定する際にツールバーで余白を指定することができます。余白はマニュアルごとに値が違います。ひとつのマニュアルでは値を統一するようにしてください。今回この使い方を作る際に参考にしたマニュアルは上下とも3mmで統一していました。

4-8. 図の一部を強調させる

- 1) 画面左のツールパレットで、「線」または「楕円形」のツールを選択します。パレットが表示されていない場合は[ウィンドウ]メニューにある[ツール]を選択します。
- 2) 「線」パレットで線の太さと、線の端の形を設定します。パレットが表示されていない場合は[ウィンドウ]メニューにある[線]を選択します。
矢印を使いたい場合はここで設定します。
- 3) 「スウォッチ」パレットで色を設定します。パレットが表示されていない場合は[ウィンドウ]メニューにある[スウォッチ]を選択します。
ツールパレットにある二つの箱がそれぞれ面の色と、線の色に対応しています。
- 4) キャプションを入れる場合は、新しくテキストボックスを作ってその中に文章を書きます。

4-9. 図をグループ化する

図はグループ化しておくとも図を移動させる際に便利です。

- 1) グループ化させたい図を選択します。(「Shift」を押しながら図を選択することで複数の図を選択できます。)
- 2) 右クリックしてグループ化を選択します。(「コマンドキー」+「G」でもグループ化できます。)

5. 目次を作成する

目次は特定の段落スタイルをピックアップすることで自動作成されます。

- 1) [レイアウト]メニューの[目次...]を選択してください。
- 2) マウ斯卡ーソルの形が変わります。

- 3) 目次を貼付ける場所を選択してマウスをクリックしてください。
- 4) ページ数をキーボードで入力します。(※7)

※7 目次でのページ数について

[目次...]を選択するとどの段落スタイルを目次にピックアップするかを設定できます。治郎吉商店ではマニュアルの中の「見出し1」と「見出し2」の段落スタイルの部分が自動でピックアップされるように定義しています。ページ数は自動で作成されません。したがって、ページ数は自分で確認しながら打ち込む必要があります。

6. 治郎吉商店の段落スタイル

テキストボックスの中において文章を作る際に文字の大きさや種類、間隔、位置を決定しているのが段落スタイルです。段落スタイルを使うことによって見やすいマニュアルを作成することができます。段落スタイルの設定は治郎吉商店で統一されています。そのため、あらかじめ設定された段落スタイルを使用してマニュアルを作っていくことになります。

新しいマニュアルを作る際には前にあるマニュアルの文章を削除して、新しいマニュアルを作っているようです。こうすることで、複雑な段落スタイルの設定を省略することができます。

6-1. 段落スタイルの位置について

マニュアルを見やすくするために、ページが変わる際には見出しやタイトルになるようなものがページの最後に来るのは避けてください。たとえば見出し1、見出し2、操作手順の説明、リファレンスタグです。操作手順の説明や、本文、図といったものがページの最後に来るようにすると次のページに続くことがわかりやすいため、見やすいマニュアルになります。

6-2. 治郎吉商店で定義している段落スタイル

段落スタイルは In Design の画面を起動した際に右側に表示されるパレットを使って指定します(※8)。以下の1から10が治郎吉商店で定義して使っている段落スタイルです。

※8

段落スタイルのツールバーが表示されていない場合は[ウィンドウ]メニューにある[段落スタイル]を選択すれば表示されます。それ以外のツールバーも[ウィンドウ]メニューによって表示と非表示を切り替えることができます

1) 見出し1

大きな章の見出しに使われます。目次を作る際に自動でこの段落スタイルの部分が目次にピックアップされます。

フォントの種類は平成角ゴシック体、サイズは 25.4Q に設定されています。

2) 見出し2

見出しをつけるような部分で使われています。例えば「ツール」という章を見出し1で書いたとします。その場合ツールの各機能についての見出しをつけるのが見出し2です。見出し2も見出し1のように目次を作る際には自動でピックアップされます。段落スタイルの基準は見出し1を基準にしていますが、サイズは 16.993Q に設定されています。

3) 目次-見出し1

見出し1を目次にピックアップしたときのスタイルです。縦に引いてある水色の補助線の左から三番目に左端がくるように設定されています。

4) 目次-見出し2

見出し2を目次にピックアップしたときのスタイルです。縦に引いてある水色の補助線の左から四番目に左端がくるように設定されています。

5) 本文

文章を作成するときに使う段落スタイルです。本文は見出しの下で見出しの内容に触れる文章や【解説】、【注意】の内容について書かれた文章で使います。本文が用いられるのは見出しの下や、リファレンスタグの下、図の下などで使われます。操作手順の説明以外で文章になっているものは本文を使っていると考えてもいいでしょう。

フォントの種類は平成明朝体に設定されています。

ほかのスタイルの基準に設定されているスタイルです。

6) 操作手順

操作手順について書かれている部分に使います。操作手順は「1. 数値の入力」のように、数字とその後ろに操作を書きます。操作手順は体言止め(文の最後を名詞・代名詞で終えること)で書きます。

フォントの種類は平成明朝体に設定されています。また、インデントが 4.992mm、次の行との間隔が 1.993 mmに設定されています。

7) 操作手順の説明

リファレンスタグに対する本文のように、操作手順の内容について書かれた文章で使います。

また、位置は操作手順の下に来ます。本文と違って文章が始まる位置が右側によっています。

段落のスタイルは③の操作手順を基準にしていますが、インデントが 7.056mm に設定されています。

8) リファレンスタグ

【解説】や【注意】といった「すみつきカッコ」で書かれた部分に使います。

フォントの種類は平成角ゴシック体、サイズ 14.111Q に設定されています。また、次の行との間隔が 1.993mm に設定されています。

9) 箇条書きタブ付き

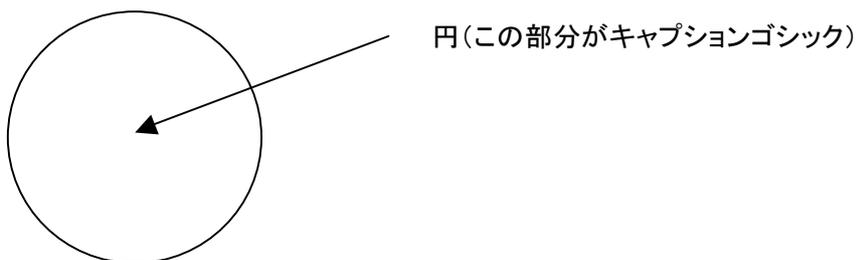
メニューやパレット上のツールについて、簡単に紹介するときに使います。水色の補助線の左から二番目に左端が来るように設定されています。

10) キャプションゴシック(※9)

図の注目する場所に円や矢印などで印をつけます。このときに矢印の先や図の下に言葉での説明を付けます。この言葉での説明の部分がキャプションゴシックの段落スタイルを使っています。

フォントの種類は平成角ゴシック体に設定されています。

例)



※9

治郎吉商店では段落スタイルの名前をキャプションゴシックとしていますが、キャプションというのは写真につけた説明、映画の字幕のことを指し微妙に意味が違います。